

第一	綱領
第二	沿革
第三	事業ノ成績
第四	院舎及設備
第五	事業及組織
第六	諸規定

財團東京顯微鏡院一覽 第四版

第一 綱領

東京顯微鏡院ノ創立ハ實ニ明治二十四年百花燎亂タル四月ニテ在リシナリ。此年ヤ結核、虎列刺ヲ初メ幾多不明ノ病原ヲ發見シ、醫學史上一大革新ヲ與ヘテ名聲轟々世界ノ耳目ヲ驚カシタル曠古ノ偉人ノ一と。こつほ氏ガ結核治療劑トシテつべるくりんヲ發表シタルノ秋ナリシナリ。蓋シ我邦ノ實驗的醫學未ダ一般醫界ニ普カラズ、細菌學の診斷ノ應用殆ド見ルニ足ルモノナシ。此進歩遅々タル現狀ニ慊焉タル吾人ハ不敏自ラ揣ルニ邊ナク、蹶然起テ一ノ私立試驗所ヲ設ケ、實地醫家ノ補助機關トナリ、細菌學の・顯微鏡的試驗ヲ實行セント聲明シタルモノハ即チ東京顯微鏡院ナリシナリ。

如上ノ綱領ヲ提ゲテ事業ノ首途ニ上リシ東京顯微鏡院ハ、爾後峻坦起伏幾多ノ行路ヲ歩ミ來ルコト茲ニ五十年、此間生物科學ノ趨勢ヲ觀レバ、細菌形態ノ追究ニ餘念ナカリシ時代ハ早クモ去リテ、原蟲界ノ闡明ニ進ミ、轉ジテ血清學ノ新天地ヲ拓キ、更ニ轉ジテ化學的療法トナリ、三轉シテわくちん免疫ノ領域ヨリ、最近廣義ノ生物學の治療ノ堂奥ニ闖入セントスルノ概アリ、進展殆ド究極スル所ナシ。斯クシテ得タル理論ハ取テ以テ診斷上ノ應用トナリ、又治療上ノ材料トナリ。此間ニ處シ來レル本院ノ使命ハ學術ノ進運ト共ニ重キヲ加ヘ、遂ニ多般ノ業務ヲ施行スルニ至レリ。今事業ノ要旨ヲ擧グレバ次ノ如シ。

- 一 日新醫學ノ研究及輓推
- 二 衛生思想ノ普及及宣傳
- 三 醫事衛生材料ノ検査

- 四 醫科用特種器械ノ檢定
- 五 學術的製品ノ提供
- 六 健康診査及衛生上ノ相談
- 七 特種疾病ノ豫防・診斷及治療
- 八 無料檢査及診療

此等ノ目的ヲ達成センガ爲メ、本院ノ事業ヲ大別シテ三部トナス、曰ク學術部、曰ク診療部、曰ク社會事業部是ナリ。各部ノ組織及内容ハ次章詳叙スル所ノ如シ。

本院ノ綱領ハ斯ノ如シ、而シテ院ハ元遠山椿吉單獨ノ經營ニ屬シタルヲ、震災後ノ復興營爲粗ホ完成シタルヲ機トシ、基礎ノ安定ヲ計リ、以テ斯業ヲ永ク後昆ニ遺サントシ、昭和二年三月財團法人組織トナレルモノナリ。而シテ役員・職員皆同好ノ士之ニ當ル、素ト是叢爾タル一研究所、時勢ノ推移ニ伴フテ今日ノ形態ヲナセル者、畢竟先輩ノ誘掖ト同僚ノ援助ニ由レルニ外ナラズ、冀クハ將來永ク此慶ヲ續ケテ斯業ノ益々發達センコトヲ。

第二 沿革

明治二十四年 四月一日、遠山椿吉、川上元治郎、佐藤保協同シ、東京市京橋區新肴町六番地成醫會ノ一室ヲ借りテ、實驗室ヲ設置シ、之ヲ東京顯微鏡檢査所ト命ケ、其主旨ヲ發表シ、規定ヲ設ケ、他ノ依頼ニ應ジテ醫學的諸種ノ檢査ヲ始メタリ、之ヲ本院ノ起原トス。○九月、本所ニ於テ結核菌簡便檢査法ヲ出版ス。○同月、研究規定、顯微鏡檢定手續ヲ定メ、又病原的黴菌標本ノ頒與ヲ始ム。○十二月、本所ノ考案ニ係ル喀痰沈澱器ヲ器械舖松本儀兵衛ニ命ジテ製造發賣セシム。



創 立 者
川 上 元 治 郎 君

同二十五年 二月、黴菌檢査必携ヲ考案シ、松本儀兵衛ヲシテ製造發賣セシム。○四月、第一回講習科ヲ開ク、遠山椿吉、中島一可講師タリ、之ヲ本院教務ノ創始トス。○七月、卒業式ヲ行フ、爾後連年春秋二回開講ス。○同月、本所ヲ東京顯微鏡院ト改稱ス。○同月、本院卒業生丸東外數氏ノ發起ヲ以テ東京顯微鏡院院友會ヲ起シ、其ノ發會式ヲ行フ。



教 務 創 設 者
中 島 一 可 君

同二十七年 一月、初テ種痘術講習科ヲ設置ス、三島通良、沼野孝太郎氏講師タリ、爾後顯微鏡講習科ト同時ニ開講スルコト、ナセリ。○二月、實驗室內規ヲ定メ、實習ノ爲メ公衆施種痘ヲ開始シ、又培養壤ノ頒與ヲ始ム。○六月、本院ノ製造ニ係ル顯微鏡的幻燈映畫及其說明書成リ、三原親之ヲシテ製造發賣セシム。○七月十八日、雜誌「顯微鏡」第一號ヲ發刊シ、院友會機關雜誌ニ代用セシム、爾來年四回乃至六回發行ス。○九月、第六回講習科ヨリ山極勝三郎、入澤達吉、新井春次郎三氏ヲ講師トス。○十二月二十二日、入澤達吉、遠山椿吉外二三氏ノ發起ニ係ルまるびぎ一氏二百年紀念祭ヲ本院内ニ行フ、伊國代理公使其他内外朝野ノ貴紳會スルモノ百數十名。

同二十八年 四月、第四回内國勸業博覽會ニ本院事業ニ關スル諸書類及學術標本器械等ヲ出品シ、十二月褒證及賞牌ヲ受ク。○五月、飲料水ノ檢査ヲ始ム。○七月、都下虎列刺